

第2回生田緑地マネジメント会議準備会 議事録

開催日時 平成23年12月14日(水) 12:30~17:00

開催場所 生田緑地(岡本太郎美術館)

出席者 (別紙)

- 議題
- 1 視察
 - 2 視察の振り返りと意見交換
 - 3 閉会

1. 視察(生田緑地内の視察)

2. 視察の振り返りと意見交換

○配付資料確認(事務局荻原)

(コーディネーター) 今日、体験した印象を分かち合い、前回の質問や情報提示と一緒に、1月からのマネジメント会議のルールブック反映いただきたいと思います。まずは、今回生田緑地を歩いてみて、生田緑地にある良いもの、良いこと、さらに伸ばしていきたい、展開したら良いというもの、あるいは守っていききたい、こと、もっと外へ発信していった方が良いことを、テーブルで対話していただき、一枚のペーパーに書いていただきたい。

(会員) マネジメント会議自体がよく分からない。

(コーディネーター) マネジメント会議というのは前例があるものではなく、今後の生田緑地をどのようにしていくかというのがマネジメント会議である。この生田緑地にあるいろんな理想図が、一つ一つの関係性をつなげたり展開したりしながら、よりよい緑地にするために、この場で理想図や希望を出していただいた方が良いと思う。

(会員) このマネジメント会議は、何のために必要としているのかが分からない。

(コーディネーター) 今日、色々と問題点、注意すべき点を指摘していただいたが、そういう問題点を解決していく会議だと思う。

(事務局) マネジメント会議の設置の大きな目的として、生田緑地ビジョンの実現に向け

て多様な主体に集まっていただき、協議・調整、合意形成を図りながら、実践につなげていくものであり、具体的な内容については、今後のルールづくりの中で議論していきたい。

(会員) 最終的に何をしようとしているのか、本題に入らないので見えない。最初に本題に入り、色々と検討し、それから現地を見るのであれば分かるが、今、現地調査をやってもし方がないと思う。一緒に歩いた方も、何を見たら良いのかを分かってないと思う。

(会員) 問題点はいくつかある。その問題をそのままにして良いのかどうかという問題。住民の人達の声聞きながらやっていくということをしっかりとらえてもらわないと架空の話になってしまう。

(事務局) マネジメント会議をどのようなものにしたら良いかということ、これから皆さんと話し合いたい。生田緑地を知っていただき、「生田緑地の課題は何か」、「これからもっとよくしていきたいところはどこか」ということを話し合い、マネジメント会議をどのような形にしたら良いかという話し合いにつなげていければ良いと思う。

(会員) もっと具体的に「マネジメント会議のイメージはこういうもの」というものを、具体的な例を挙げて、分かりやすく説明していただきたい。

(会員) 広める部会、高める部会、守る部会を一つ一つ伸ばし、「25年度には川崎市北部をこのようにする」というビジョンを実現できるかどうかは、我々の気持ちと行動にかかっている。行政に任せるのではなく、我々の意見一つ一つが実っていくようにしたら良いと思う。

(会員) 私も、このマネジメント会議をどうするのか未だによく分かっていない。植生管理協議会と管理運営協議会をどのように考えて行くかも分からないままである。また、整備構想で「将来の生田緑地でこういうことをやろう」といったことを考えたが、何が不十分で何が問題となっているのか。

(事務局) 生田緑地ビジョンは、整備構想、整備計画、管理計画の三つの計画を踏まえつつ、藤子ミュージアムや青少年科学館等の生田緑地の整備、向ヶ丘遊園の跡地活用などの状況変化も考慮し、再度将来像を示す構想を策定したものである。生田緑地ビジョンでは、生田緑地の魅力を向上させる持続可能な運営を推進していくために、多様な主体が連携しながら生田緑地の運営にかかわる受け皿として「協働のプラットフォーム」の構築が示された。

(会員) 私も、生田緑地整備構想、基本計画、管理計画の策定に参加してきたので、「また同じ事」という印象はある。しかし、新しい方が増え「色々な活動団体があるのが初めて間近で見られた」という感想があることにも目を向けるべきである。私もマネジメント会議をよく分かっていないが、生田緑地に協議会が二つあるが、互いの意見交流の場もないため、全体の意見の集約になるのではないか。

(コーディネーター) このマネジメント会議の目的はこれから決まっていくもので、みなさんで決めるということ。これだけの担い手が揃い、一つのルールを決め、私たちの活動する場所、ある種のまちづくりを自身の手で作っていくという新しい試みだと思う。愛知を真似する必要は全くない。今日、初めて歩き、この緑地の中でどういう事が行われ、何が大事なのかということを考えられた方もいるのではないかと思う。その体験を基に、それぞれの見方で対応していくことが大事なことはないかと思う。その様な会議としてマネジメント会議をスタートさせたい。

(会員) 今、生田緑地に色々なグループ、団体があるが、それとこのマネジメント会議はどういう違いがあるのか。

(コーディネーター) 色々なグループ、団体、多様な担い手、主体の方々が、自分の価値観を対話するという場所だと思っている。まちづくりに関わっている方から自然保護に関わっている方まで、一緒に語る場はなかったのではないかと思う。

(会員) 管理運営協議会と植生管理協議会の場で何が決定され、どのような権限を持ち、それが活動団体の活動にどう結びついているのか、その意志決定のプロセス、意見の違いをどのように集約させて活動に反映させていくかというプロセスを説明する場がないので分かりにくい。今、どのような原理原則がどのように決められて動いているかということが共有されていない。そうした場があれば、足りないこと、知らなかったことについての意見が出る。そこを埋め、決めるプログラムを組み入れないと、ここが何をやるどころなのか分かりにくい。

(会員) 前回の管理運営協議会の勉強会で、生田緑地とモリコロパークとの違いを比較した。一番衝撃的だったのは、生田緑地では数十年活動している団体があり、生田緑地ビジョンのような取り組みが何度もあったということである。今までの取り組みを無視することは良くない。楽しい場もあり、コミュニケーションが取れる状況になってきた段階で新しい主体、学生や商店街が加わってくるので、ワークショップはある程度やっても良いと思う。

(会員) 植生管理協議会では、ある場所の植生管理を巡って議論しなければいけないと
思っていることがある。一つは色々な主体が関わる時に意志決定のプロセスを大事にして
いかなければいけないということ。もう一つは、元々価値観の違う主体が一緒に何かをし
ていくことの難しさである。違う価値観を持ちながら、一緒に何かをしていくというこ
とは必要だと思う。もう一つは、自然を大事だと思う立場と公園を使っていくという立場と
が価値観を共有していくと、「守る」ということ自体ができなくなってしまうということだ
がある。そう考えると、価値観を共有することが良いことかどうか、迷いがある。意志決定
のプロセスについては、現場で色々な事を考えて決め、決めたことは基本的にみんな守っ
ていくというやり方をとっている。

(コーディネーター) マネジメント会議は、ただ価値観を一つにするための場ではなく、
多様な価値観がある場を作っていく、そのプロセス自身だと思う。価値観を一つにするこ
とは誰にもできない事だと思う。多様な価値観がある、担い手自身がみんなで共存してい
くためのマネジメント会議を実現するために、この準備会があるということだと思う。

(会員) 「生田緑地を愛する」という大きなテーマを掲げれば、みんな快く集まって来るが、
一年間通じて活動している人たちと同じところから出発するのは、無理があると思う。し
かし、自然を守り、子供達に教育するなど、我々の知恵と努力で生田緑地が将来にわたり
維持していくという大事なテーマをこの会議で決めることは大賛成であり、専門家のもと、
共同のテーマを話し合っ一つ一つやっていった方が早いと思う。

(コーディネーター) 今日は、生田緑地で活動、活躍している市民、NPOの方々の現状を
知った。緑地を守ってくれている方がいる中で、集客の話をする。しかし、守っている立
場の方からの話を、集客を考えている人達は聞かなければいけない。そういう対話の場を
最初につくりたいということである。価値観の共有ではなく、右ができれば左の方へ波及し
てしまうという問題をどこで調整するのか、そのルールから決めようというのが準備会で
あり、どの領域、どのテーマでどのようにやるかを決めたい。

(会員) 運営については、自然保護を目的としたり、あるいは自然を保護しながら使いや
すい形にしていくといった、一つの主体的なものを作り上げていかないと、幅広い考え方
はまとまらないと思う。そのあたりを、行政が主導を取り、呼びかけ、意見集約しながら
議論できるようにしていかないと難しいと思う。

(コーディネーター) 準備会では色々なテーマが出てくると思う。それに対して責任を持
ち、解決できる人たちが集まって分科会を作っていく。単なる懐古主義ではなく、本当に
重要な新しいルールを、それに関わる人たちだけで作っていくということだと思う。だか

ら当然、その柱の建て方からやらなければいけない。

(会員) 植生管理協議会では市民部会というシステムを導入し、現地で話し合い、植生管理計画を決めてきた。それはまさにルールである。それに対して、また新しいルールを作るというのはどうなのか。行政がこういう事を提案するという目的をはっきりさせるべき。その目的が分からないままでは、みんなの考え方や価値観も違うわけだから、支離滅裂になる。

(コーディネーター) 前回出していたいただいた質問、情報、提案の中から、ルールづくりとして必要なテーマを選択し、議論していただくことになると思う。その中には、運営だけでなく整備の問題や我々の関与の度合いまでを作っていくたい。

(会員) 今回は、マネジメント会議をどうするかという会議自体のルールだと思う。だから、「生田緑地を使うためのルール」とは別物ではないか。また、前回「生田緑地ビジョン」が配られたが、あれが行政からの提案と理解しているが、どうか。

(事務局) その通りだと思っている。生田緑地ビジョンが基本になっている。

(会員) 現状の問題について、管理運営協議会と植生管理協議会で今、何をやっているかを説明することが必要なのではないかと思う。

(事務局) 植生管理協議会の管理運営協議会の内容について説明の時間を設けたいと思う。

(会員) この会議を立ち上げるという誘いを受けた時、何をするのか疑問だった。そのやり方や方向等が出てこないまま、「マネジメント会議を開こう」ということだが、今までのことを否定しながらやるのか。また、先ほど「柱を立てる」という話があった。それは立派なことだが、そうであれば我々の世代ではなく、時間をかけないといけないのではないか。しかし、時間をかけて民主主義的なことをやるのは良いが、この緑地はどんどん荒廃していくことになるのではないか。マネジメント会議は川崎市が主体となり、市がある程度の考え方を出し、どうするかを問うべきではないかと思う。

(事務局) 色々な方が活動しているということは生田緑地の大きな特徴であり、さらに参加者を増やし、活動を広め、厚みのある活動ができるような仕組みにしたいと思っている。

(会員) ボランティアに管理させることは良いが、行政の視点でトータル的に考えてもらいたい。専門家が見張り、方向性を持った上で、我々メンバーや各団体の活動につながっ

ていけば非常に賛成である。

(コーディネーター) まさにそういう働きをしたい為の会議である。どこまでがこの会議の範疇、領域であるかということ、この準備会のルールで決めていきたい。まずは準備会で、どこまで私たちの議論ができるのかを決めたい。

(会員) 生田緑地の管理運営は指定管理者の業務となると思うが、業者が入ってきた時に、これまでボランティアで活動してきた人がどう対応していくのか。これまでに決めてきたビジョンがあるが、そのビジョンを指定管理者が破ることなく、さらに向上していくような話し合いを持つ場なのかと感じたが、どのように考えているのか。業者が入ってきたらどうになってしまうのか。

(会員) この指定管理の問題は大事であり、我々の意見がここから集約され、業者に伝わるような形にしないと問題が起きると思う。その点は充分留意していただきたい。

(コーディネーター) 一つの問題は、このマネジメント会議の意見や発言がどこまで権限を持っているのかということだと思う。指定管理者との関係なども分からないと、会議主体がよく分からないことにもなる。そうした権限の積み重ねの中で、また同じ様な事ではイヤだということではないかと思う。

(事務局) 管理、整備、運営という 3 つの輪があり、管理及び整備の一部と運営はマネジメント会議が中心となる。また、行政や指定管理者は、管理や整備に関する内容もマネジメント会議で報告され、それに対する意見を言うこともできる。こうしたイメージを基にルールを作っていきたいと思っているので、指定管理者が勝手にやるということは考えられないことである。

(コーディネーター) 割愛したが、今日は「どうしてもこれだけは絶対解決したい」という問題を挙げていただきたいと思っていた。それによってこの会議の領域が分かってくると思う。この会議で決めたことの発言の力、権限がどこまで及ぶべきなのか。輪は重なっているが、どの範囲まで重なっているかが分からないので、これからのプロセスの中でその範囲を規定したいと思っていた。この問題は重要なところなので、次回資料を用意し、引き続き議論を展開するということにしたい。是非ここからもう一度進みたいと思うのでよろしくお願ひしたい。

3. 事務連絡

○事務連絡 (事務局)

以上